

Tubbataha Reef

続々と登録される世界遺産の海。

その先駆的な存在のトゥバタハリーフは、

フィリピンで一番最初に世界遺産に登録された極上の海。

季節風の影響のために、潜れるのは3月中旬～6月中旬。

日本人ダイバーにとっては、ゴールデンウィークの定番クルーズとなった。

広大な海域に生息する多種多様な生き物に出会う旅、第6弾が登場！

Photo&Text = Yasuaki Kagii

Special thanks = World Tour Planners

Design = tomato

GWの定番 トゥバタハリーフ クルーズ！



01/川のように流れるギンガメアジの群れ

02/今回、乗船取材を行ったBORNEO EXPLORER号



02

世界遺産クルーズ！トゥバタハリーフクルーズ乗船レポート！第6弾

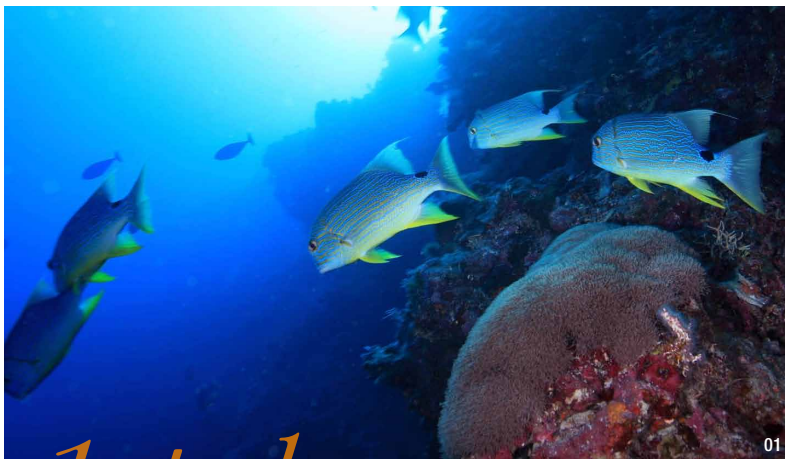
近年、よく見かけるようになったイレスミフエタイ。美しい姿態が印象的だ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]



Information Link  関連情報HPへ
<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/index.html>



1st day



チェックダイブを兼ねて、ファーストダイブで潜った「malayan wreck」。トウバタハリーフでは、代表的なポイントである。棚の上でエントリーすると大きな人工物が鎮座しているのが、すぐ気が付く。ゆっくり接近していくとコショウダイの仲間がたくさん群れているのがわかる。朽ちた沈船と魚を眺め、撮影していると、沈船から大きめの魚が現れた。緑色のカムリブダイだった。数は30匹ほどで、海底に口を当て、何やらゴソゴソと食べて移動している。昨年朝一のダイビングで、この沈船にカムリブダイがいることを確認していたが、まさか今年も同じような状況で会えるとは思わなかった。どうやらカムリブダイの群れは、この「malayan wreck」を棲家しているようだ。6年前と5年前には、彼らの姿は見なかった。手付かずの自然遺産の海の中で少しずつの変化に気付く。沈船を楽しんだ後は、ドロップオフに向かう。トウバタハリーフはほとんどが、垂直に落ち込む地形で、ウォー

ルダイブを体験することができる。中性浮力を保ちながら、水深を変えて、様々な生き物との出会いを楽しむ。水深20～30m辺りでは、スミレナガハナダイのオスとメスがたくさん見受けられる。その辺りの水深を少し下げた観察すると、アケボノハゼやアオマスクなどが見つかる。ドロップオフの底に住むカラフルなマクロの生き物の観察もなかなか良い。2,3本目は、「amos rock」でウォールダイブを楽しみながら、ヒオドシベラやニチリンダテハゼなどのマクロの生き物とご対面した。4本目は、「gorgonian channel」にエントリー。ここでは、川のようにドロップオフに流れ落ちるギンガメアジの群れやバラクーダの30匹ほどの群れにも出会う幸運に恵まれた。

- 01/イレズミフエダイの小さな群れを何箇所かで発見
- 02/「うふっ」とさきやいている?ミジレウミウシ
- 03/フィリピンレニーも愛嬌満天
- 04/クリーナーでもあるヒオドシベラの幼魚
- 05/少し深い水深のプリンセス・スミレナガハナダイ
- 06/バラクーダの群れも登場する!
- 07/朽ち果てた沈船は、今は立派な漁礁になっている

クルーズ初日からトップギア!



GWの定番 トウバタハリーフクルーズ!

Tubbataha Reef

WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]



Information Link <http://www.wtp.jp/area/tubbataha/index.html>

2nd day

朝、移動して、サウス・トゥバタハの最南端に到着する。この辺りは、魚影の濃いポイントが並んでいる。特に、1本目のダイビングで潜りこんだ「delsan」は、ドロップオフ沿いでは、イソマグロやナポレオンフィッシュを始め、ロウニンアジやカスミアジなどの編隊も見られる。そして、見所は、棚の上のギンガメアジの大群。規模の大きなギンガメアジの塊が、浅瀬を泳いでいる。うまく回り込むと、群れにパクリと飲み込まれてしまう。世界中の海で、ギンガメアジには会えることはできるが、トゥバタハ環礁では、他とは違う特徴がある。それは、ギンガメアジの群れの下には極上のサンゴ礁が広がっているということ。大きなギンガメアジの群れと健全なサンゴ礁のコンビネーションはこの海の豊かさを象徴しているように思える。

トゥバタハリーフならではの極上風景

GWの定番 トゥバタハリーフクルーズ!
Tubbataha Reef
WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]

Information Link  関連情報HPへ
<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/index.html>



2nd day

01 無垢なサンゴ礁で遊ぶカメたち！

- 01/ダイバーに接近を許してくれるアオウミガメ
- 02/コバンザメの「ちょんまげ」が可愛かった
- 03/豊かなサンゴ礁にスダレチョウチョウウオが舞う、海の牧歌的風景
- 04/ホヤの上に乗ったタテジマヘビギンボ
- 05/砂地でボツンと見つかるニチリンダテハゼ



2 本目と4本目は、「staghorn」にエントリーした。最初のダイブでは、まず、豊かなスタッグホーン・コーラルの群棲に釘付けとなった。浅瀬の緩やかな傾斜は、一面に美しいサンゴが広がり、その上には、ハナゴイやスズメダイが群れている。俯瞰でその群棲を眺めていると、ゆったりとした気持ちになり、大物に出会えなかったとしても、それはそれで、良いのかも?とってしまう。4本目に再度、エントリーしたが、全く違ったポイントのような楽しみがあった。ポイントはカメだった。進めば進むほど、タイムイとアオウミガメが現れる。2本目のダイビングではほとんど見なかったのに、

夕方近い時間帯になると、本当にたくさんのカメに出会えた。1ダイブで10匹は確認した。美しいサンゴの隙間にあるちょっとしたガレ場が、実はクリーニングステーションになっていて、カメたちは、そこにやって来ては、チョウチョウウオなどによるクリーニングを楽しんでいる。お掃除されていたカメの中で、1匹、頭にコバンザメをくっ付けた個体があった。まるで、ちょんまげのようで、それはとても可愛かった。

GWの定番 トウバタハリーフクルーズ！

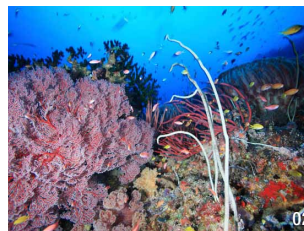
Tubbataha Reef
WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]

サウス・トゥバタハの北に移動し、「black rock」で2本のダイビングを行う。朝一番のダイビングのために、まだ海中は薄暗い。ドロップオフ沿いに潜降するが、底が見えないために、冒険心を煽られる。数年前にこのポイントでは、マンタに遭遇した経験がある。少し期待しながら、潮の流れに乗ってダイビングを進めいく。ブルーウォーターには、クマザサハナムロやウメイロモドキの群れが泳いでいる。それを狙ってロウニンアジが回遊する。地形はドロップオフというよりも、カーテン状で亀裂が入ったような地形。その亀裂は、潮の流れがなくゆっくりとフィッシュウォッチングを楽しむことができた。

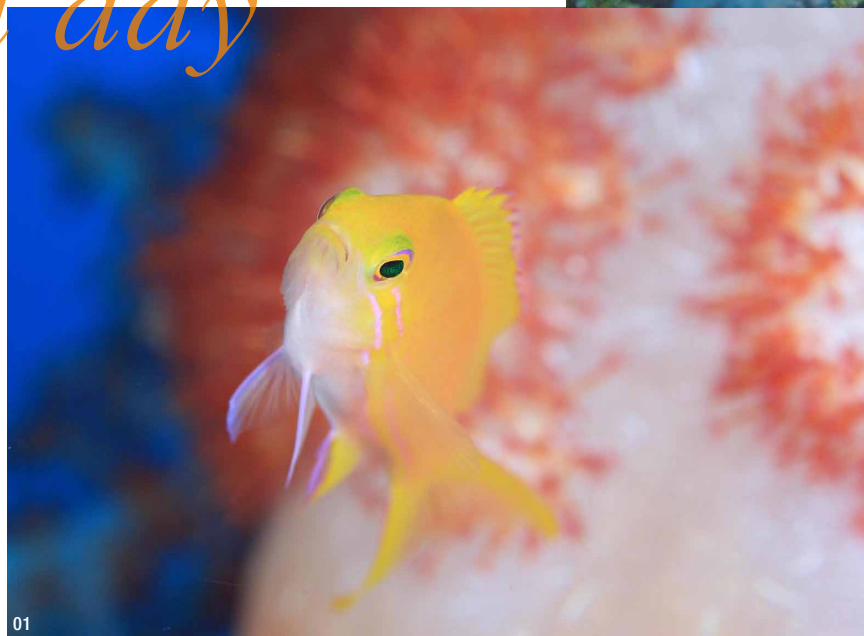
2本目もほぼ同じポイントに潜ったが、十分な日差しがある海中世界は、1本目とはまるで

違った趣がある。どちらが良いわけではないが、早朝から続く海の時間を感じるのも悪くない。

3本目のポイントは「wall street」。ニューヨークのマンハッタンのような、高層ビルが建ち並ぶ地形が広がっていると説明があったが、それほど特筆すべきものではなかった。このポイントも壁沿いの亀裂ごとに魚が溜まっているので、そこが見所となる。



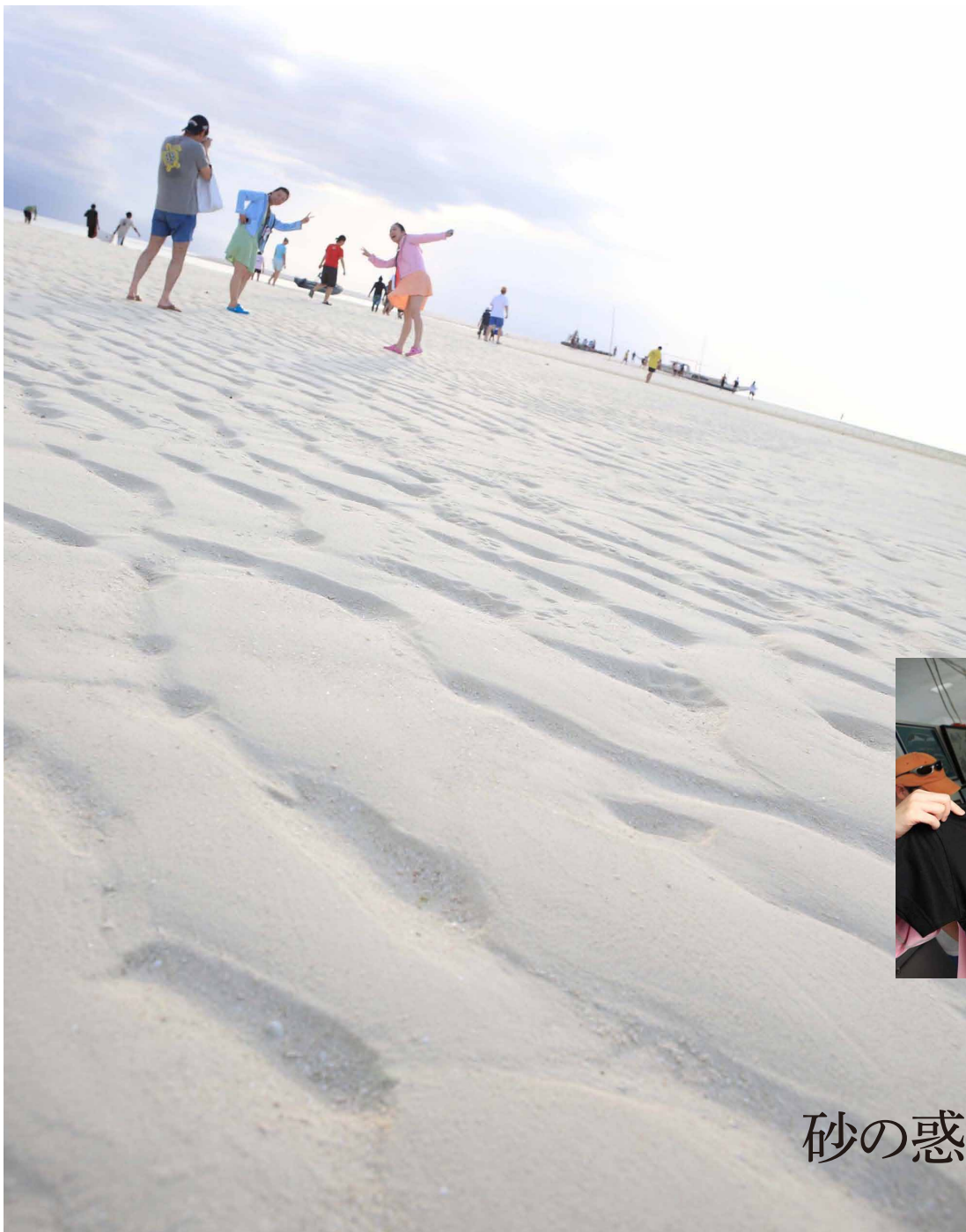
3rd day



- 01/ キンギョハナダイの可愛い表情をゲット!
- 02/ 腔腸類も見事に咲き誇っている
- 03/ 広大なサンゴ礁が広がる、そしてゲストダイバー
- 04/ ナポレオンの幼魚は、意外とたくさんいる
- 05/ ホシゴンベとパープルビューティーのコーラボ
- 06/ よく見るとアオマスクなど人気種も見つかる

魚まみれのクルーズライフは続く!

GWの定番 トゥバタハリーフクルーズ!
Tubbataha Reef
 WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]



01/環境を変えて、暮れ時の砂浜で乾杯!

02/意外とデザインのカッコイイ記念Tシャツ

そして4本目のダイビングを終え、みんなでレンジャーステーションに向かった。クルーズ船では、Tシャツなどのお土産がないので、ここで販売されているTシャツが人気だ。同じように上陸している他のクルーズ船のゲストと情報交換。どうやら午後にはライトハウス周辺のポイントでジンベイザメを見たい。運というのは、面白いもの。4日目の最終日に私たちのクルーズにも幸運の女神が現れて欲しいものだ。

砂の惑星！レンジャーステーションに降り立つ！ *Ranger station*

クルーズの合間、つかの間の陸上体験

GWの定番 トウバタハリーフクルーズ!
Tubbataha Reef
WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]

Information Link  関連情報HPへ
<http://www.wtp.co.jp/area/tubbataha/index.html>



コース・トゥバタハの最北端まで移動。1本目のポイントは「shark airport」。浅瀬の白い砂地がいくつもあり、そこにネムリブカが寝ている、ダイバーが接近すると、飛行機が離陸するように飛び立っていく。それが、ネーミングの由来のようだ。次々に離陸していくネムリブカを眺めながら、潮の流れに乗って、進んでいくと、ゲストダイバーたちが、追いかけてくっついて見えた。近づいていくと大きなギンガメアジの群れが見えてきた。大きなギンガメアジの群れは、ゲストダイバー

たちの前で、優雅に泳ぎ、みんなのカメラに収まっていく。他のグループは、イレズミフエダイの群れも観察したとのこと。ポイント毎によって、ポテンシャルがかなり違うが、その変化が、このトゥバタハリーフの特徴なのかもしれない。その年やクルーズ船、若しくはゲストの運、不運によって、ジンバイザメやマンタの遭遇率は異なるが、美しいサンゴ環境とそこで暮らす生き物たちとの出会いは素晴らしい。期間限定の世界遺産、トゥバタハリーフ環礁クルーズに是非!

Final day

ギンガメアジの群れに囲まれて、最終日を迎える!

01

01/ ギンガメアジに囲まれる幸せを感じる

02/ バンダのようなクラカオチョウチョウウオのペア

03/ トゥバタハリーフで記念ダイブ! 「おめでとう!」

04/ ネムリブカに隠れて泳ぐカスマアジ

05/ ナボレオンとハマフエダイと一緒に獲物を狙う



02



03

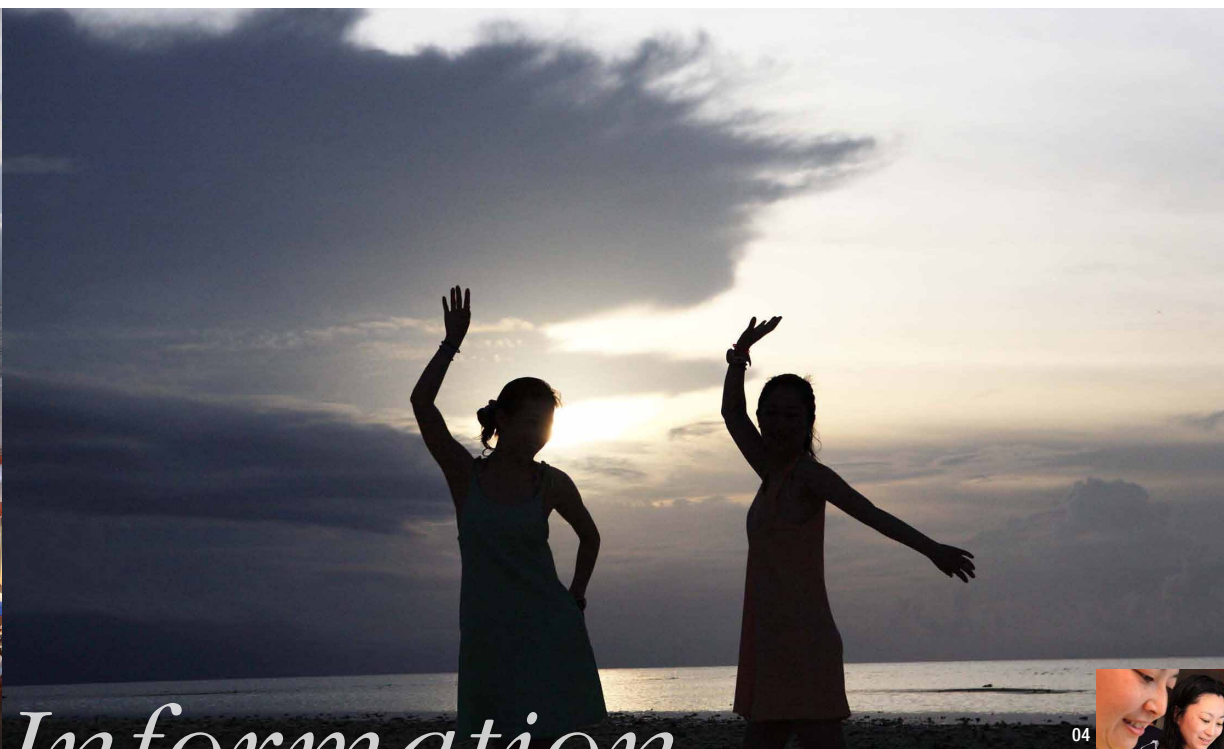


04



05

GWの定番 トゥバタハリーフクルーズ!
Tubbataha Reef
WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]



Information



2年連続で、乗船取材を行ったBORNEO EXPLORER号。クルーの入れ替わりはあったが、知り合いのクルーもいて、楽しいクルーズライフを満喫することができた。GWに何隻ものクルーズ船が、日本人のゲスト向けにチャーターされているが、基本的なスケジュールや内容はほぼ同じ。日中に4本とナイトダイビング1本が毎日の基本メニュー。環礁内で一度クルーズ船が係留すると、その後は、各ポイントまではディンギーボートでの移動になる。しかし、それぞれのポイントまで近く(場合による)、ポイントも隣接しているので、1日4本~5本にダイビングも無理なく、時間に余裕を持って行うことができる。

そして、食事。毎食buffetスタイルで、肉、魚、ご飯、サラダ、スープ、デザート、フルーツなど盛りだくさんで用意される。日本人向けの味付けで、クルーズ中の体重増加が気になる方も続々……(笑)。ツウバタハ環礁に着いてしまえば、その後は環礁内を移動、常に海況の穏やかな場所でクルーズ船を係留するので、船酔いの心配も少ない。「飲んで、食べて、潜って、寝る」、そんなクルーズの黄金リズムを満喫できるトゥバタハリーフクルーズなのだ!



- 01/ 洋上で様々な色に染まるクルーズ船
- 02/ 広いリビングで食事、ログ付け、飲み!
- 03/ ディンギーボートでレンジャーステーションに向かう
- 04/ 美しい夕暮れをバックに記念撮影。気分はフラ??? (笑)
- 05/ 食事は美味しく、ボリュームも満点!
- 06/ ダイビングの合間、みんなでワイワイご飯タイム!
- 07/ 夜はやっぱり宴会…… (笑) 飲み過ぎないように……!

GWの定番 トゥバタハリーフクルーズ!

Tubbataha Reef
WEB-LUE 2011. Autumn [tubbataha]